

たまねぎレポート【第389号】



令和2年3月26日

阪南青果株式会社

社内報

2月の天候は、気温は全国的に高く、東日本でかなり高かった。日本海側の降雪量は北・東日本の日本海側でかなり少なかった。沖縄・奄美では降水量はかなり少なく、日照時間がかなり多かった。此の冬の平均気温は2℃も高く、北・東日本の日本海側の降雪量は記録的な少雪で希有の暖冬であった。3月も平均気温は平年より高く、桜の開花は1週間程度早まった。

気象庁の4月～6月の3か月予報では、期間の平均気温は、北・東日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。降水量は、沖縄・奄美で平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

4月、全国的に天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多い。

5月、北日本と東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では平年と同様に曇りや雨の日が多い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

2月の建値市場の野菜の販売量は、217,489トン前年比107%、市場別には多少のバラツキがあるが、札幌市場以外は前年比増であった。総平均単価はkg ¥202前年比93%となっている。福岡市場以外は前年比安で、総じては数量増の価格安であった。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比97%、平均単価はkg ¥173前年比91%。東京市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥216前年比93%。名古屋市場の販売量は前年比109%、平均単価はkg ¥194前年比91%。大阪本場は前年比113%の販売量で、平均単価はkg ¥193前年比90%。福岡市場は前年比106%の販売量で、平均単価はkg ¥159前年比101%となっている。

建値市場の2月の玉葱販売量は27,966トン前年比117%で、前年比2桁増に転じた。総平均単価はkg ¥78前年比57%で、依然大幅な価格安であった。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は2,972トン前年比80%、平均単価はkg ¥55前年比54%。東京市場の販売量は11,194トン前年比123%、平均単価はkg ¥82前年比53%。名古屋市場の販売量は6,910トン前年比111%、平均単価はkg ¥79前年比61%。大阪本場の販売量

は4,832トン前年比147%、平均単価はkg¥77前年比52%。福岡市場の販売量は2,058トン前年比125%、平均単価はkg¥89前年比66%となっている。いずれの市場も、平均単価は前年比大幅安で、2月も厳しい販売環境が続いた。産地に近く、集散機能を持つ札幌市場の数量減が気に掛かる。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区の代表荷受7社の2月の主要野菜14品目の販売量は、95,998トン前年比8%増、平均単価はkg¥119前年比8%安となっている。販売量が前年比増の品目は、結球レタスとジャガイモが前年比17%増、キャベツが13%増など13品目。前年比減の品目は、ピーマンが前年比14%減の1品目のみ。価格が前年比高であった品目は、ハクサイがkg¥47で前年比27%高、キュウリがkg¥399で21%高、ピーマンがkg¥765で同じく21%高などの4品目。前年比安の品目は、タマネギがkg¥69で前年比36%安、キャベツがkg¥52で25%安、ネギがkg216で24%安など8品目となっている。ニンジンがkg¥84、ナスはkg¥448でいずれも前年並みとなっている。

東京都中央卸売市場の2月の野菜の入荷は、122,038トン前年比107%（前月比102%）。平均単価はkg¥216前年比93%（前月比92%）となっている。依然として入荷増の価格安が続いているが、一部の品目に品薄高傾向が発生している。入荷が前年比増の品目は、タマネギが前年比124%、サトイモが116%、レタス・ダイコンが113%など12品目。入荷が前年比減の品目は、ピーマンが前年比90%、トマトが96%、ハクサイが98%の3品目。販売単価が前年比高の品目はハクサイがkg¥51で前年比134%、キュウリがkg¥450で123%、ピーマンがkg¥811で117%、ニンジンがkg¥118で116%など5品目。前年比安の品目は、玉葱がkg¥82で前年比53%、ネギがkg¥207で70%、キャベツがkg¥59で73%など10品目となっている。

東京都中央卸売市場の2月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	122,038	106.9	102.1	216	93.0	92.3
た ま ね ぎ	11,194	123.5	137.8	82	53.4	86.3
キ ャ ベ ツ	16,495	106.4	107.2	59	73.4	86.8
は く さ い	12,222	98.0	87.4	51	133.8	85.0
だ い こ ん	11,082	112.7	98.2	69	84.9	92.0
ば れ い し ょ	8,286	111.6	99.8	90	85.0	103.5
レ タ ス	7,736	112.6	104.4	168	83.8	80.4
に ん じ ん	6,009	101.3	94.2	118	116.3	91.5
ト マ ト	4,796	96.1	91.5	428	113.7	127.4
き ゆ う り	4,663	104.7	114.8	450	122.8	74.1
ね ぎ	4,614	111.1	85.2	207	70.2	78.7
か ぼ ち ゃ	2,143	104.2	113.9	149	86.0	74.5
な が い も	1,005	141.0	128.7	293	86.4	106.6
れ ん こ ん	661	96.4	99.1	521	109.9	113.3
に ん に く	391	119.3	132.5	699	79.6	98.9

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の2月の玉葱の入荷量は8,128トン前年比99%(前月比138%)。北海物主力で北海物の入荷は、8,438トン前年比123%、占有率は75%前年比1%ポイントダウン。静岡物の入荷は2,293トン前年比1

46%、占有率は21%で前年比4ポイントアップ。中国物の入荷は188トン前年比47%、占有率2%で2ポイントダウン。長崎物の入荷は188トン前年比139%、占有率は1%で前年と変わらず。総平均単価はkg¥82前年比53%（前月比86%）。産地別では、北海物はkg¥66前年比46%。静岡物はkg¥136前年比61%。中国物はkg¥113前年比134%となっている。

3月に入って、新玉は静岡物が終盤を迎え入荷は日を追って減少し、佐賀、長崎物が増加傾向となったが、数量的には品薄傾向で、価格は前年同期を大幅に上回った。北海物の入荷は依然潤沢で、品余り現象が続いた。主力JAではL大¥1,200、L¥1,000の仕切り値を固守し、出荷調整に応じたこともあり、市場在庫は減少した。反面、市況回復は望み薄として、商系等で見切り販売に転じた銘柄は、L大¥900、L¥700の買付処理となり、客の流れは割安物の当用買い傾向が強まった。此処に来て、コロナウイルスの影響等で業務需要の減少が表面化し、荷動きは低迷している。北海物はいずれの銘柄も値下がりして、裏相場は¥600～¥500に落ち込んでいる。新玉の入荷は予想外に少ないが、北海物に足を引っ張られて荷動きは今一つである。

3月1日～19日の玉葱の入荷量は6,697トン前年比101%、平均単価はkg¥82前年比61%となっている。産地別では、北海物の入荷は5,122トン前年比128%、平均単価はkg¥61前年比45%。静岡物の入荷は736トン前年比45%、平均単価はkg¥156前年比109%、長崎物の入荷は344トン前年比129%、平均単価はkg¥147前年比134%。佐賀物は276トンの入荷で前年比96%、平均単価はkg¥157前年比111%となっている。静岡物は前進化で3月の入荷は前年比大幅減、北海物は大幅増。価格は北海物が前年比大幅安、新物は、静岡・長崎・佐賀いずれも前年比2桁高となっている。

名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の2月の玉葱販売量は、6,910トン前年比111%（前月比155%）で前年比、前月比とも大幅増となっている。主力は北海物で、販売量は6,014トン前年比108%、占有率は87%で前年比2%ダウン。静岡物の販売量は776トン前年比153%、占有率は11%前年比3ポイントアップ。愛知物は80トン前年比116%、占有率は1%で前年と同じ。総平均単価はkg79前年比61%（前月比96%）で、前年比・前月比ともに安値となっている。産地別では、北海物はkg¥70前年比59%、静岡物はkg¥137前年比59%、愛知物はkg¥124前年比49%となっている。

3月に入ってからでも北海物主力の販売であったが、依然荷動きは低迷し、値下がり傾向が続き、相場は先行き¥1,000維持が厳しい状況となった。新玉の静岡物は引き合いが強いものの終盤期で入荷は少ない。地場の愛知物は、先駆けの知多地区が中旬にはピークが過ぎ入荷は減少傾向となった。続く碧南地区は人参の収穫が優先され、玉葱の出荷は月後半からで、新物は品薄高、北海は品余り安の状態となった。今週に入り、北海・新物ともに値下がり傾向が続いている。此の先、最盛期となる碧南地区の作柄は前年の様な豊作型ではなさそうだが、北海物は流通段階の滞留品が多く販売環境は厳しい。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の2月の玉葱の販売量は、4,832トン前年比147%（前月比141%）で前年比・前月比とも大幅増であった。主力の北海物は、3,122トン前年比134%、占有率65%前年比6ポイントダウン。愛媛物は619トン前年はなし、占有率13%。静岡物は525トン前年比151%、占有率は11%で前年と同じ。兵庫の冷蔵物は480トン前年比101%、占有率は10%で前年比5ポイントダウン。長崎物は78t前年比76%、占有率2%前年比1ポイ

ントダウン。総平均単価はkg ¥ 77前年比52%(前月比91%)で相場は終始軟調であった。産地別では、北海物はkg ¥ 63前年比47%。愛媛物はkg ¥ 70。静岡物はkg ¥ 131で前年比58%。兵庫物はkg ¥ 96前年比61%。長崎物はkg ¥ 172前年比119%となっている。

3月に入ってからは、玉葱の入荷は、北海物の入荷増で前年をかなり上回っているものの、新玉は生育前進化で静岡物の終盤が早まったほか、長崎、佐賀物も早植え早採りから、通常の作型との谷間で、入荷は前年を下回り、北海物は品余りで安く、新玉は品薄高となった。月半ばからの入荷は、長崎物が増加したが、新型コロナウイルス絡みで、業務需要や給食需要が減少していることで、北海・長崎物のいずれも、荷動き鈍く相場は値下がり傾向となった。今週には、佐賀物が加わり需給は供給過剰傾向を強めている。特に、北海物は¥ 1,000割れの銘柄が多くなっている。

3月1日～19日の販売量は2,656トン前年比107%。総平均単価はkg ¥ 78前年比59%。産地別では、北海物の入荷は1,897トン前年比127%、平均単価はkg ¥ 55前年比41%。長崎物の入荷は398トン前年比95%、平均単価はkg ¥ 142前年比112%。兵庫の冷蔵物は245トンの入荷で前年比131%、平均単価はkg ¥ 117前年比75%。静岡物は69トンの入荷で前年比22%、平均単価はkg ¥ 146前年比111%で、北海物と兵庫物は前年比安、長崎、静岡物は前年比高となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の2月の玉葱販売量は、2,058トン前年比125%(前月比112%)で、前年比、前月比とも大幅増となっている。主力の北海物の販売量は1,553トン前年比134%、占有率は75%前年比5ポイントアップ。長崎物が227トン前年比173%、占有率は11%前年比2ポイントアップ。中国物

が149トン前年比55%、占有率7%前年比10ポイントダウン。愛媛物が70トン前年比160%、占有率は3%前年比0.7ポイントアップ。総平均単価はkg ¥89前年比65%。(前月比105%)。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥76前年比52%、長崎物はkg ¥156前年比99%。中国物はkg ¥97前年比131%。愛媛物はkg ¥106前年比55%となっている。

3月に入ってから、北海物は主力JAの仕切値の値下げはなく、厳しい販売が続いた。商系のなかには、先行きを諦観し、成り行き販売で手仕舞いを志向し、2L~Lの買い取り値 ¥800~700の値決めが発生した。長崎物は雨天に阻まれ出荷は後ズレ傾向となったが、漸く順調な入荷が続き、日々値下がり傾向となった。今週に入り、北海物と新玉の長崎・佐賀物で半々の販売量となったが、荷動きが鈍く、軟調な相場が続いている。

3月1日~19日の販売量は1,515トン前年比110%、平均単価はkg ¥89前年比70%で数量増となったが、依然価格の低迷が続いている。

3月24日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷123トン ◎コロナの影響で当面競売中止、相場取れず

【太田市場】 入荷266トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥1,000~ 500、L大 ¥1,000~ 500、 L ¥800 ~ 500、
M ¥500 ~

佐 賀 10kgDB2L ¥1,200~1,000、L ¥1,400~1,200、 M ¥1,200~1,000。

長 崎 10kgDB2L ¥800 ~ 600、 L ¥1,200~ 800、 M ¥1,200~ 700。

愛 知 10kgDB2L ¥1,000~ 800、 L ¥1,300~1,200、 M ¥1,100~1,000。

【名古屋北部】 入荷318トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥1,200~ 800、 L大 ¥1,200~ 800、 L ¥1,000~ 600。

静岡 10kgDB2L ¥1,100～1,000、L ¥1,400～1,300、M ¥1,200～1,100。

愛知 10kgDB2L ¥1,200～1,000、L ¥1,400～1,300、M ¥1,200～1,100。

【大阪本場】入荷60トン 保合

北海道 20kgDB2L ¥1,000～800、L大 ¥1,000～800、L ¥900～700。

兵庫 10kgDB2L ¥1,200～1,000、L ¥1,000～800、M ¥900～700。

佐賀 10kgDB2L ¥900～800、L ¥1,100～800、M ¥900～800。

長崎 10kgDB2L ¥1,000～700、L ¥1,200～800、M ¥1,000～800。

大阪 10kgDB2L ¥1,000～800、L ¥1,000～800、M ¥1,000～800。

【福岡市場】入荷112トン 弱保合

北海道 20kgDB2L ¥1,000～600、L大 ¥1,000～600、L ¥800～500、
M ¥600～500。

佐賀 10kgDB2L ¥900～800、L ¥1,200～700、M ¥1,000～700、

長崎 10kgDB2L ¥900～600、L ¥1,200～700、M ¥1,000～700、

供給(産地)の動き

3月も新型コロナウイルスの感染問題で、政治的にも、経済的にも、社会的にも諸問題が発生し、野菜の需給にも影響が発生している。特に、人の移動が制限され、各方面で影響が出ている。4月は、府県産の早生物の出荷が、本格化するが、いずれの産地の作柄も、前年の豊作を下回る予想であるが、北海道の残量が多く、市況の足枷になる可能性が高く、高値相場は望めない。

北海道、

3月末の産地在庫の詳細は把握していないが、通常は総出荷数量の5%程度かだか、今年ホクレンでは7月までの販売を計画しており、出荷の後ズレを考

えると10%程度の在庫がある。と見ている。更に、業務加工筋では、需要の落ち込みで、原料在庫が滞留して処分に頭を悩ましている。

長崎、作付は5%程度増反されているが、早植え早出しの2月出荷は外品の発生率が高く、通期の出荷量は前年を下回ると予想されている。4月出荷は従来産地の諫早地区が主力となる。

佐賀、昨年の安値市況と病害に依る減収で、生産性が低下し、減反傾向にある。今年の作付は1,443haで前年比14%の減反となっている。生育は総じて前進化しているものの、定植時のバラツキが大きく、作柄の圃場格差は大きい。球肥大は昨年より進んでいるが、ベト病、腐敗病など病害の発生率は高く、収穫を心配している生産者が多い。4月から出荷は本格化する。

兵庫、主産地淡路島の作付は1,388ha前年比96%、早生の比率が21%前年比2ポイントアップ。生育は順調だが昨年の豊作に比べるとやや見劣りがする。先日、調査機関から腐敗病の多発について注意報が出ている。生産者は防除に懸命で、病害の肥培管理にも熟練し、他産地に比べ技術力も高い。島外で「ハモグリバエ」の初確認があった。との新聞情報に気を揉んでいる。

輸入動向

2月の輸入は、速報値で14,100トン前年比56%と減少しているが、コロナウイルスの影響で中国物が激減すると予想されていた割には多かった。主力は中国物で輸入量の93%を占めている。中国物は13,182トン前年比59%、アメリカ物が427トン前年比20%コロナウイルスの影響で激減が予想されていたが、1月は大きな影響はなく、2月は予想を上回った。

中国、甘粛省の在庫が意外に多く、流通段階での滞留増なども影響して、価格は急落している。3月末から出荷は雲南省に移行するが、現在価格は、甘粛省産で20kg・C&F・\$6.00前後に値下がりし、日本向けは回復に向かっている。

ニュージーランド、未だ日本側では、北海物の在庫が豊富で、ニュージー物に対する関心は薄い。価格は、20kg・C&F・¥900前後と聞すが、成約は進んでいない。

4月の市況見通し

4月の市況は、北海物の潤沢な出回りで、北海は続落・府県も前年価格を下回るものの、府県物は北海物の足枷がなくなる4月末から回復に転じ、5月の最盛期には需要が回復、前年並み亦は前年を上回る水準に上昇の可能性がある。(了)